沖縄の歴史情報研究」に関われた喜び

黒田義人:株式会社ニチマイ営業統括部ディジタル推進グループ

「沖縄の歴史情報研究」に関わるきっかけは、筑波大学の中野目先生から岩崎先生を紹介された、４年ほど前にさかのぼります。当時私は入社３年目の駆け出し営業マンで、筑波大学などいくつかの大学・図書館を担当し、マイクロ撮影やマイクロ出版物の売り込みに従事しておりました。

以来「沖縄の歴史情報」研究室を頻繁に訪ねるようになった私に、先生はプロジェクトの一参加者として接してくださり、仕事の依頼以外にも、沖縄の研究会への参加やそこでの発表の機会など、様々な経験を与えてくださりました。私自身史学科の出身で、イギリス公文書館より取り寄せたマイクロフィルムを睨み付けながら、１８世紀末のイギリス海軍の反乱をテーマに修士論文を書いたことがありました。この中で感じたのは、イギリスでは一次資料の保存とレファレンスサービスが日本に比べ充実していること、そしてマイクロフイルムの扱い難さでした。

このプロジェクトに関わる直前、私はある会社からの依頼で米国のマイクロスキャナーメーカーを訪問し、その代理店契約に一役買っておりました。ちょうど国立国会図書館では、「パイロット電子図書館」構想が実行に移されようとしていた時期で、このスキャナーが普及することで、マイクロフィルムの電子化に弾みがつくこどは間違いありませんでした。

見辛いリーダープリンタではなく、コンピュータ画面で一次資料が見れる。こんなすばらしいことはないじゃないか。岩崎先生の研究室に出入りしだした頃の私は、マイクロフイルムのＣＤ化ばかりを得意になってにしていたように思います。しかし岩崎先生は、電子化はいつでも出来る、重要なのは資料を収集しデータベース化することである、そして資料の収集にはマイクロフィルムが今の段階では最も適していると、優しく諭されました。

今から考えると、先生の先見性には今更ながら恐れ入るばかりです。CD-ROM から DVD へといったメディアの変換はすでに現実のものとなっており、また現在標準とされている画像フォーマットも５年後１０年後には新しいフォーマットに移行することは確実です。コンピュータの世界は日進月歩で姿を変化させますが、それに引きずられては現実を見失うと改めて痛感いたしました。

最後に、「沖縄の歴史情報研究」に関われたことは、私にとって大変光栄なことであり、喜びでありました。星野先生からお聞きしたディケンズのこと、図書館の篠塚先生から聞いた古地図についての研究のこと、思い起こせばいろいろなことが頭に去来いたします。このような機会を与えてくださいました先生方には感謝するばかりです。本当にありがとうございました。